

●行政向けコンペ・プロポーザル支援リーフレット

建築・まちづくり委員会は都市・まちづくり委員会との情報交換を行うと共に、JIAまちづくり会議を通して、各支部のまちづくり関係者との意見交換を行っています。具体的な形としては、行政との関係づくりのツールとして「行政向けコンペ支援リーフレット」を作成中で、関係部局との意見交換を実施しています。

良質な建築を生み出すため、第三者的立場で公平かつ独立した組織のJIAがコンペ・プロポーザル方式の運行支援を行うものです。

●良質な建築・美しい街づくりの仕組み・萌芽事例シート

各支部地域会における良質な建築・美しい街づくりの仕組みの萌芽事例を集めて、情報交換の材料にする活動を進めています。

良質な建築・美しい街づくりの仕組み、萌芽事例シート	
タイトル	横浜市との災害協定、包括連携協定
支部	関東甲信越支部神奈川地域会
記入者	新田善彦、青木恵美子
記入日	2016.03.25
カテゴリ	該当するものに○をつけてください(複数可)。
	<input type="checkbox"/> 1 まちづくり協議会への支援 <input type="checkbox"/> 2 審議会支援 <input type="checkbox"/> 3 行政との協定 <input type="checkbox"/> 4 コンペ・プロポーザル支援 <input type="checkbox"/> 5 広報活動 <input type="checkbox"/> 6 教育活動 <input type="checkbox"/> 7 その他()
概要(200文字程度)	神奈川地域会としては一番の効果は、行政との協定である。
●災害協定	地震発生時の応急危険度判定、建築相談、技術的支援を協力を協定を横浜市と締結(2013.05)
●包括連携協定	まちづくり・建築分野の課題解決に対して包括連携協定を横浜市と締結(2014.07)
	快適で魅力的な、災害に強い安全安心なまちづくり、豊かな住生活の実現、環境配慮の建築物普及

■ JIAが関わったコンペ・プロポーザルの事例

横浜市庁舎等競技設計(公開審査型コンペ)
主査: 新田善彦、青木恵美子

「自治体ごとに異なる(設計者・発注者)方法を基本としては、自治体担当者との熱意と専門家の支援の必要性を感じた。コンペ実施に際しては、担当者との各方向への働きかけ・働きかけという熱意の賜であった。」(審査員、建築家・宮沢俊郎氏)



選手市地域活動センター-小野大野谷倉庫改修(公募型プロポーザルコンペ)
-専門家を含む検討委員会のほか、市民ワークショップを開催-

「(選手市での)2つの事例を経験してつくづく思うのは、プロポーザル方式ならではの良さが出てきて、私にはないとても豊かな発想を提示してくれたということです。新鮮な「気付き」がありました。設計者はやっぱりすごいなあと思いましたね。そしてそれを市民も受け止めて参加してきたわけです。」(平井優一 選手市)



お問い合わせ
北海道支部: 011-261-7708 東北支部: 022-225-1120 関東甲信越支部: 03-3408-8291
 関東支部: 052-263-4636 北陸支部: 076-229-7207 近畿支部: 06-6229-3371
 中国支部: 082-222-8810 四国支部: 088-685-8068 九州支部: 092-761-5267
 沖縄支部: 098-943-8949 本館: 03-3408-7125

The Japan Institute of Architects
公益社団法人日本建築家協会 作成: JIAまちづくり会

■ 良質な建築を生み出すためのコンペ・プロポーザル方式の運行を支援します

公共建築は地域の景観や文化に大きな影響を持つものですが、残念ながら公共建築の作り手である設計者の選定、質と能力とは無関係に競争入札で選定という方法が多数を占めてきました。しかし近年では良質な建築・美しいまちづくりのために、公共建築の設計者を「設計競技(コンペ)方式」や「プロポーザル方式」によって選定する機会が増えてきています。

公共建築は設計と施工の分離発注が基本です。この中でわたくしは公益社団法人日本建築家協会(JIA)は、発注者である地域住民に対して公共建築の質を担保する方法として「設計競技(コンペ)方式」や「プロポーザル方式」が適切な方法であると考えます。

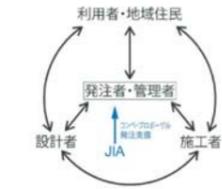
公共建築の建設プロセスを地域住民の動きに響かせるため、地域社会に活力を取り戻していくための手段として「開かれたコンペ・プロポーザル」の運営を支援いたします。これを高品質なために地方自治体の方々との信頼・協力体制の構築を目標としています。

コンペ・プロポーザル方式は発注者の意向を踏まえ、発注者と設計者の間に「コンペ・プロポーザル方式」による「開かれたコンペ・プロポーザル」の運営を支援いたします。

■ 第三者的立場で公平かつ独立した支援

日本建築家協会(JIA)は公共建築のコンペ・プロポーザルに必要な条件である独立性と公平性を保ちながら、運営の支援を致します。適切なプロセスを経て選ばれた設計者による設計書の選定こそが公共建築の公益性を実現する第一の条件であることは間違いありません。

JIAは多様な利害関係者の意見に耳を傾けながら、第三者的立場で自治体や地域住民の個別の状況に対応する支援を行います。



リーフレットの一部抜粋

良質な建築・美しい街づくりの仕組み・萌芽事例シートの例

●JCCA×JIA協働シンポジウム

都市・まちづくり委員会は、建設コンサルタンツ協会美しい国づくり専門委員会と協働で、これまで土木実務者と建築実務者の交流の場として、「誰が景観を創るのか」をテーマに、協働でシンポジウムを昨年度までに計6回開催してきました。また、平成26年2月には、両協会会長による「美しい国づくりをみんなの力で」と題して対談が行われ、土木と建築が手を携えて進めようという議論がなされました。

これらを受けて、第7回から第9回を一区切りとして、「土木と建築の協働～コラボレイティブDESIGN～」を新たなテーマに協働シンポジウムを開催しました。

平成27年1月28日に開催した第7回は、「地域デザインの時代へ」と題して、東京大学教授羽藤英二氏に基調講演をいただき、日本建築家協会と建設コンサルタンツ協会から、他の分野と協働している事例を紹介し、これからの景観をだれが創るのか、協働のあり方や必要な仕組みについて議論しました。

平成27年7月8日に開催した第8回は、「土木・建築の垣根のないまちづくり～コラボレイティブDESIGN」と題して、森ビルの本耕一氏に基調講演をいただき、デベロッパーとの仕事の機会が多い各分野の設計者とのディスカッションを通して、理想的なコラボレーションのあり方について議論しました。

平成28年2月5日の区切りの回となる第9回は、これまでの協働シンポジウムの総括を行うとともに、建築、都市、土木を横断する活動をしている建築家・内藤廣氏を迎え、これからの新たな協働に向けた基調講演をいただきました。また、土木と建築の協働の先進事例である富山のコンパクトシティや英国CABEの紹介を行うとともに、パネルディスカッションにより、協働のための仕組みづくりについても議論を深めました。



誰が景観を創るのか?
第9回 JCCA x JIA 協働シンポジウム
「コラボレイティブ DESIGN」
COLLABORATIVE DESIGN
基調講演 「建築・都市・土木」
内藤 廣
神田 昌幸
坂井 文
小林 正美
コーディネーター 富樫 茂樹

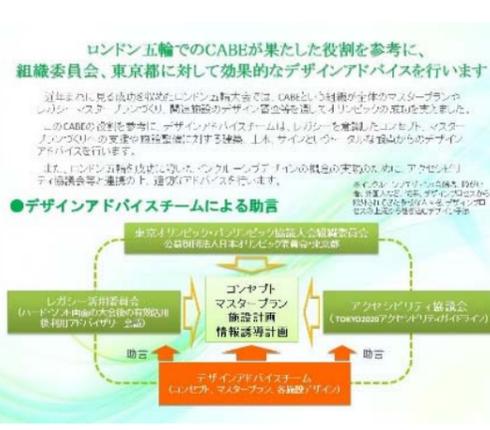
平成28年2月5日(金) 18:00~20:30
TOTOテクニカルセンター



第9回シンポジウムのフライヤー及び内藤廣氏の基調講演の様子

●2020年リビック・パラリビックへの提案

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機として、世界一美しい都市 東京のより良いオリンピックレガシーの構築に向けて、建設コンサルタンツ協会、日本建築家協会、日本サインデザイン協会の三協会からデザインアドバイsteamの提案およびチームによる支援の提案を行いました。



ロンドン五輪でのCABEが果たした役割を参考に、組織委員会、東京都に対して効果的なデザインアドバイスを行います。

近年のうちに成長を遂げたロンドン五輪大会では、CABEという組織が全体のマスタープランやレガシー(マスター・プラン)に、開かれたデザイン・協働を通してオリンピックの成功を促しました。このCABEの役割を参考に、デザインアドバイsteamは、レガシーを推進したレガシー・マスタープランづくりに必要な支援体制に対する議論、土木・サイン・グラフィックなどからデザインアドバイsteamを行います。

また、ロンドン五輪を皮切りに、オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、アクティブ・デザイン・チームが連携の上、運営アドバイsteamを行います。

●デザインアドバイsteamによる助言

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会
公益社団法人日本オリンピック委員会(日本OPI)

レガシー活用委員会(ハードウェア側の大規模の有効活用検討アドバイsteam) 助言

コンヤブト マスタープラン 助言
施設計画 情報誘導計画

デザインアドバイsteam (トピックス、マスタープランを統括する) 助言

デザインアドバイsteam 助言
サイン・グラフィック・グラフィック

提案のイメージ: デザインアドバイsteamはコンセプト、マスタープラン、施設計画への助言を行う

建築・まちづくり委員会

当委員会は良質な建築、美しいまちづくりの仕組みづくりのために、英国のCABEを参考に様々な活動を行っています。月1回のミーティングと共に会員への共有を図るべく、ブルチンに「日本版CABEを考える」の連載をしています。

具体的な活動としては、行政との関係づくりのツールとして「行政向けコンペ支援リーフレット」を作成中で、関係部局との意見交換を実施しています。また、各支部地域会における萌芽事例を集めて、情報交換の材料にする活動を進めています。首都大学東京の市古太郎氏には8月の勉強会として、また、3月の地域会サミットで「事前復興まちづくり」をテーマに講演していただきました。

次年度は「行政向けコンペ支援リーフレット」の利用実施と萌芽事例シートの充実を図っていきます。

昨年度の主な活動内容

1. JIAまちづくり会議の運営
2. 行政向けコンペ・プロポーザル支援リーフレット
3. 良質な建築、美しい街づくり萌芽事例シート

委員会メンバー

連健夫、黒木正郎、上浪寛、長島孝一、小林正美、西川直子、後藤克史、田口知子、倉田直道、松本昭

都市・まちづくり委員会

当委員会は昨年度もより良い景観づくりに関する活動を行って来ました。

新たな取組として建築・まちづくり委員会と連携してJIAまちづくり会議を立ち上げ、各地の特色あるまちづくりの事例等の共有を行いました。

また、継続した取組として建設コンサルタンツ協会との協働シンポも開催しました。2/5の第9回シンポでは内藤廣氏に基調講演を頂き、建築・土木・都市計画がイメージを共有することの重要性を伺いました。

建築五会が中心の景観まちづくり協議会にも2名の委員が出席し、国交省の調査業務である「景観デザインレビューのすすめ」の作成にも関わっています。

昨年度の主な活動内容

1. JIAまちづくり会議の運営
2. JCCA×JIA協働シンポジウム
3. 2020年リビック・パラリビックへの提案

委員会メンバー

亀井尚志、古賀大、砂金宏和、上西明、大崎将大、小野正道、金井豊、上坂智史、黒木正郎、田中互、宮部浩幸